

6 本学附属歯科診療所における歯科予防処置実施の実態調査

○和田麻衣子, 本間和代, 江川広子, 平澤明美, 渡辺美幸
 幸田奈美, 木戸真紗美, 小野真奈美, 佐藤裕子
 明倫短期大学 歯科衛生士学科

keywords : 明倫短期大学附属歯科診療所, 歯科予防処置, 患者, 実態

はじめに

本学歯科衛生士学科の臨床実習における歯科予防処置の実施ケース数は、歯石除去・フッ化物歯面塗布が各々10人と定められている。学生は本学附属歯科診療所での実習期間中にケースの取得を目指す。対象患者を確保することは容易ではない。そこで、患者確保の現状を把握し、課題を検討するため、本調査を行った。

対象および方法

対象：歯科衛生士学科17年度生79名
 方法：歯科予防処置実施記録を基に学生の生活基盤、実習ケースの取得状況、学生と患者の関係、曜日別実施数などの比率を求めた。さらに期間内にケースを取得できなかった者については学業成績を調べ、ケース未取得の要因を検討した。

結果および考察

学生の生活基盤は、自宅生が46.8%、自宅外生が53.2%であった。実習期間内の歯石除去ケース取得者は89.8%で、自宅生45.6%、自宅外生44.2%と生活基盤による大きな差はなかった。また、フッ化物歯面塗布のケース取得者は93.6%で、自宅生43%、自宅外生50.6%と自宅外生が多かった。共に取得者が多かったのは、ケース取得の重要性を例年より強く指導したため、学生が生活基盤に関わらず危機感をもって望んだ結果と思われる。また、学生と患者の関係は、歯石除去は図1に示すとおり、友人・知人が最も多く、フッ化物歯面塗布は図2に示すとおり、リコール患者が最も多かった。歯石除去患者に友人・知人が多いのは、同年代には時間のゆとりや距離的な面で依頼しやすかったの

はないかと考えられる。フッ化物歯面塗布患者にリコールが多いのは、母親のう蝕予防への関心が高く、フッ化物塗布の重要性の認識が高いため、リコールに繋がっていると考えられる。実施数は歯石除去、フッ化物歯面塗布共に曜日別の大きな差はみられなかった。

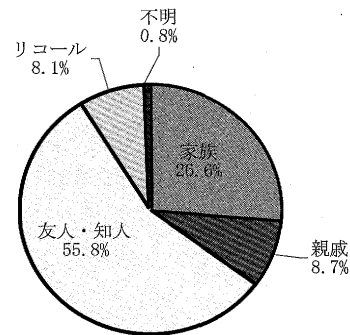


図1 学生と患者の関係 (スケーリング)

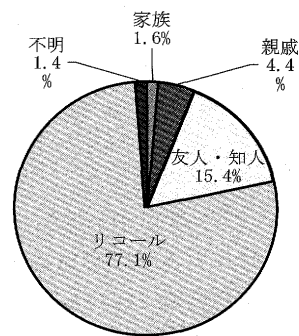


図2 学生と患者の関係 (フッ化物歯面塗布)

今後、本調査結果を基に歯科予防処置実施の現状をさらに把握・検討し、学生全員が期間内にケースを取得できるよう、モチベーションを高める指導をしていくことが重要と考える。